

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 愛媛県 】

学校名【 八幡浜市立松柏中学校 】

1 実践テーマ	Ⅲ・Ⅴ
2 実施対象者 (学年・人数)	全校生徒 112名 (第1学年39名 第2学年28名 第3学年45名) 教職員 13名 保護者 10名 (講演会に来られた人数)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育科) ② 行事名 (人権・同和教育講演会) ③ その他 (オリ・パラクイズの実施、掲示板での啓発) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	講演会でのねらい (1)「共生」の意味を理解し、相手を思いやる心を育てる。 (2) パラリンピアンとの交流を通して、障がい者スポーツに対する興味・関心を高める。 授業でのねらい スポーツの文化的意義を考える。 (単元名「文化としてのスポーツ」)
5 取組内容	(1) 人権・同和教育講演会 (演題:「パラ陸上から学ぶ」) 11月22日(金)に矢野繁樹氏(松山盲学校教諭、シドニーパラリンピック銀メダリスト)と瀧本啓太氏(松山市消防署職員、伴走者)を講師にお迎えし、「パラ陸上から学ぶ」という演題で講演会を開催した。講師のお二人には、次の内容で講演していただいた。 ア 矢野氏の障がいと競技について 矢野氏の病気のことや陸上競技との出会い、そして現在瀧本氏と二人で取り組まれている競技のことなどについて分かりやすく説明していただいた。 イ パラリンピックから学んだこと 初めて出場したアトランタ大会、銀メダルを獲得したシドニー大会、そして伴走者と共に出場したアテネ大会。三度のパラリンピック出場で学んだ教訓を教えていただいた。

- (ア) アトランタ大会
 - ・自分のやってきたことを信じること
- (イ) シドニー大会
 - ・何事も迷わず楽しむこと
- (ウ) アテネ大会
 - ・一心不乱に完全燃焼すること
 - ・伴走者と走ることは助力を借りることではない。2倍以上の喜びや楽しさを得られる。



写真1・2：映像資料を見ながら説明していただいている様子

ウ 伴走選手権

最初に、お二人の講師の先生から競技の見本を見せていただき、その後各クラスの代表生徒および教員が、二人一組（一人が目隠しをし障がい者役、一人は伴走者役）で伴走体験を行った。直線距離が20mほどのため、お二人が現在練習されているというスキップで伴走体験を行った。一人が目隠しをしているので最初に行った1年生ペアはぎこちなかったが、一組終わるごとにワンポイントアドバイスをいただき、最後に行った教員ペアは見事な伴走を披露した。



写真3：講師お二人の模範



写真4：スタート失敗の1年生



写真5・6：アドバイスをいただき息の合った女子生徒と教員

エ 休憩時間の様子

休憩時間にシドニーパラリンピック（4×100mリレー）の銀メダルと2018年の全国障がい者スポーツ福井大会で、お二人で獲得した第1位のメダルを見せていただいた。オリンピックのメダルを初めて見る生徒、教員、保護者も多く、興味深くメダルを見させていただいた。中には瀧本氏からメダルを首に掛けてもらい、うれしそうにしている生徒もいた。



写真7・8：メダルを見ている様子とシドニーパラリンピック銀メダル

オ 伴走者からのメッセージ

伴走者である瀧本氏から陸上競技との出会い、矢野氏の伴走者を務めるようになったきっかけや現在の活動の様子などについて簡潔に説明していただいた。講話の中で、「矢野氏の競技を助けているのではなく、共に競技を行っている」と言われたのがとても印象深い。



写真9：講演中の瀧本氏

カ パラ陸上ユニバーサルリレーの紹介と東京パラリンピックの楽しみ方

パラ陸上の新種目である4×100mユニバーサルリレーについて映像を交えて説明していただいた。障がいの異なる男女4選手がリレーしていくもので、11月の世界選手権から新種目として行われるようになったことや日本はこの種目で世界でトップレベルにあることなどを教えていただいた。



写真10：説明映像を見ている様子

(2) 授業（3年生保健体育科）での実践

国際パラリンピック委員会公認教材のI'm POSSIBLEを資料として用いた。付属しているカードの提示とDVD視聴を行った。DVD視聴後に、登場する香西選手の生き方について考えさせた。



写真11・12：3年生2クラスで行った授業の様子

(3) オリ・パラクイズの実施

校長室前に「2020東京オリンピック・パラリンピッククイズコーナー」を設け、毎日1問、オリンピックやパラリンピックに関する質問を出し、ポイントを競うようにした。講演会前には、パラリンピアンでもある講師の矢野氏に関するクイズも出した。

	 <p style="text-align: center;">写真 13・14 : クイズの解答用紙入れと解答を考えている生徒の様子</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>(1) 講演会における成果 講演会後に生徒全員に感想を書かせた。以下に二人の生徒の感想の一部を紹介するが、ほとんどの生徒に同じような内容が書かれており、二つのねらいにせまることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なことを乗り越えて三度のパラリンピックに出場されたことはとてもすごいと思った。獲得されたメダルも見ていただくという貴重な体験もさせていただいた。今回の講演会を通して、人を信頼することの大切さを学ぶことができました。 ・成長するにつれて目が悪くなる矢野さんがなぜ陸上を続けられたのか。講演からその気持ちがよく分かった。また、人の心の温かさもよくわかった。講演会を通して、もっとパラリンピックについて知りたいと思った。 <p>(2) 授業における成果 使用したDVDがとてもよく、様々なパラリンピック競技への理解を深めることができた。特に障がいをもつ人が限界に挑む姿に生徒は感動していた。</p> <p>(3) オリ・パラクイズを実施しての成果 多くの生徒がオリンピック・パラリンピックに興味を持ってきた。休み時間に生徒が先生方に話し掛け、クイズの答えを聞き出そうとしている場面をよく見かけるようになった。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>(1) 講演会中に質問の時間を設けていたが、時間がなくすべての質問にお答えしていただけなかった。後日講師のお二人からメールで返答いただき、生徒へは学校からの便りで紹介した。</p> <p>(2) 1・2年生の体育の授業では年間指導計画の中に実施できる妥当な単元がないため、3年生が視聴したDVDを給食時に視聴させた。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>今年度本校は年度途中で本事業を行うこととなり、日程調整や内容などの制限がありに苦労した部分がある。教育課程の中で扱うとなると年度はじめから予定していないと行える内容に限りがある。従って、今後同じような事業を計画する場合、前年度の3学期までに分かっていると総合的な学習の時間に盛り込むなどして多様な取組が可能になると思われる。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>本校では、総合的な学習の時間に全校生徒をテーマ別に分けて、実施している。その中の一つに、福祉コースがあり、今年度までは隣接する二つの福祉施設との交流をメインに行っているが、来年度以降は、その内容の一つにパラスポーツ体験などを入れる予定である。</p> <p>また、体育の授業では、今後も体育理論の中で今年使っている教材で授業を行っていく。</p>

